

地域医療支援病院業務報告書

令和7年9月19日

愛知県知事殿

開設者 住 所 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
〔法人の場合は、主たる〕
〔事務所の所在地〕

氏 名 学校法人藤田学園 理事長 星長 清隆
〔法人の場合は、名称及〕
〔び代表者の職・氏名〕

下記のとおり、令和6年度の業務に関して報告します。

記

1 病院の名称等

名 称	藤田医科大学岡崎医療センター					
所 在 地	愛知県岡崎市針崎西2丁目6番地1					
診 療 科 名	救急科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、脳神経内科、内科、放射線科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、形成外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、婦人科、小児科、麻酔科、皮膚科、リハビリテーション科、血液・腫瘍内科、眼科、耳鼻いんこう科、病理診断科、精神科、歯科					
病 床 数	精 神	感 染 症	結 核	療 養	一 般	合 計
					400	400

2 施設の構造設備

施 設 名	設 備 概 要		
集 中 治 療 室	（主な設備）救急蘇生装置、除細動器、ペースメーカー、心電計、呼吸循環監視装置、人工呼吸装置、超音波診断装置 病床数 10床		
化 学 検 査 室	（主な設備）生化学自動分析装置、免疫自動分析装置		
細 菌 検 査 室	（主な設備）血液培養自動分析装置、微生物同定感受性分析装置		
病 理 検 査 室	（主な設備）自動固定包埋装置、感染防止付凍結ミクロトーム		
病 理 解 剖 室	（主な設備）解剖台、医用写真撮影装置		
研 究 室	（主な設備）電子カルテ、机、椅子		
講 義 室	室数 4	収容定員 255人	
図 書 室	室数 1	蔵書数 1,000冊程度	
救 急 用 又 は 患 者 搬 送 用 自 動 車	（主な設備）トヨタ ハイエース：ストレッチャー 日産 キャラバン：車椅子固定・昇降装置 保有台数2台		
医 薬 品 情 報 管 理 室	〔専用室の場合〕 床面積 14.00㎡ 〔共用室の場合〕 室と共用		

備考1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。
2 規則第9条の2第1項各号に掲げる事項を記載した書類を添付すること。

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

1 算定期間 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 紹介率 71.5%

紹介患者の数 (A)	初診患者の数 (B)	紹介率 ($A/B \times 100$)
12,296人	17,188人	71.5%

3 逆紹介率 65.6%

逆紹介患者の数 (C)	初診患者の数 (B)	逆紹介率 ($C/B \times 100$)
11,282人	17,188人	65.6%

※1 各人数については、前年度の延べ人数を記入すること。

※2 紹介率及び逆紹介率は、小数点以下第1位まで記入すること。

※3 紹介率が80%以上であることを承認の要件とする場合で、紹介率が65%以上80%未満の病院にあつては、今後、2年間で紹介率を80%以上とするための具体的な年次計画を明らかにする書類を添付すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

共同利用の実績
(地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用)

1 共同利用の実績

- ※ 1 前年度の共同利用を行った医療機関の延べ機関数、これらの医療機関のうち申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数、共同利用に係る病床の病床利用率等を記入すること。
- ・共同利用を行った延べ医療機関数：155施設
 - ・うち申請者と直接関係のない医療機関の延べ医療機関数：155施設
 - ・共同利用に関わる病床の病床利用率：2.7%

2 共同利用の範囲等

- ※ 2 病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象としたものを記入すること。
- 開放型病床、図書室、研究室、会議室、
放射線検査機器（CT、MRI、PET-CT）、内視鏡検査、超音波検査

3 共同利用の体制

共同利用に関する規程	有 ・無	
利用医師等登録制度の担当者	氏 名	
	職 種	医師

- ※ 3 共同利用に関する規程がある場合には、当該規程の写しを添付すること。

別紙 2－3 ①、別紙 2－3 ②、別紙 2－3 ③、別紙 2－3 ④
別紙 2－3 ⑤、別紙 2－3 ⑥、別紙 2－3 ⑦ 参考

4 登録医療機関の名簿

医 療 機 関 名	開設者名	住 所	主たる診療科	申請者との経営上の関係
別紙 2－4 参照				

- ※ 4 申請に係る病院と同一の 2 次医療圏に所在する医療機関についてのみ記入すること。

5 常時共同利用可能な病床数 24床

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

救急医療提供の実績

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職 種	氏 名	勤 務 の 態 様	勤 務 時 間	備 考
		別紙 3 - 1 参照	常勤 非常勤 専従 非専従		

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	名称 (2 0) 床
専用病床	名称 () 床

※ 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記入すること。

3 重症救急患者に必要な検査又は治療を行うために必要な診療施設の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要	24時間使用の可否
ICU病棟	2 3 7 . 4 6 m ²	(主な設備) 救急蘇生装置、除細動器、ペースメーカー、心電計、呼吸循環監視装置、人工呼吸装置、超音波診断装置 等	可
救急外来	3 3 2 . 9 9 m ²	(主な設備) 除細動器、超音波診断装置、心電図モニター、心電計、縫合セット 等	可
手術室	8 0 7 . 4 8 m ²	(主な設備) 手術器具、手術材料、手術台、麻酔器、気管挿管セット、除細動器、自己血回収装置 等	可
放射線エリア	3 9 0 . 1 3 m ²	(主な設備) C T, M R I, 一般撮影、血管撮影、X線 T V 等	可
内視鏡室	6 4 . 2 4 m ²	(主な設備) 各種スコープ (上部消化管、下部消化管、気管支 等)	可

4 救急医療の提供の実績

救急用又は患者搬送用の自動車により搬入した救急患者の延べ数	7, 5 6 0 人 (2, 6 8 6 人)
上記以外の救急患者の延べ数	7, 7 0 9 人 (1, 3 2 8 人)
合計	1 5, 2 6 9 人 (4, 0 1 4 人)

※（ ）内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

5 保有する救急用又は患者搬送用の自動車の出動回数

15回

6 備考

- ・救急病院の認定告示 令和5年4月4日
(認定期間 令和5年4月1日～令和8年3月31日)
- ・病院群輪番制病院

※特定の診療科において、重症救急患者の受入れ体制を確保する場合は、その旨を記入すること。

既に、「救急病院等を定める省令」(昭和39年厚生省令第8号)に基づき知事の救急病院の認定を受けている病院及び「救急医療対策の整備事業について」(昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知)に基づき救急医療を実施している病院にあつては、その旨を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

1 研修の内容

別紙 4－1 参照

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	1 2 回
(2) (1) の合計研修者数	5 4 3 人

※ 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

(1) 研修プログラムの有無 ☒ 有・無

(2) 研修委員会の有無 ☒ 有・無

(3) 研修指導者

氏 名	職 種	診 療 科	役 職 等	臨 床 経 験 年 数	備 考
別紙 4－3 参照				年	
				年	
				年	
				年	
				年	

※ 研修責任者については、備考欄にその旨を記入すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要
大会議室 1	7 2 . 0 0 m ²	(主な設備) プロジェクター、長机、椅子、マイク
大会議室 2	8 3 . 0 0 m ²	(主な設備) プロジェクター、長机、椅子、マイク
講堂	2 2 3 . 0 5 m ²	(主な設備) プロジェクター、長机、椅子、マイク

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

1 管理責任者等

	氏 名	職 種	役 職 等
管 理 責 任 者 の 氏名、職種、役職等		医師	病院長
管 理 担 当 者 の 氏名、職種、役職等		医師	地域医療連携部長

2 諸記録の保管場所及び分類方法

		保 管 場 所	分 類 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		病院日誌 →総務課	病院日誌 →日付順
		各科診療日誌 →各診療科外来	各科診療日誌 →日付順
		その他 →医療情報システム部	その他 →医療情報システム部
	共同利用の実績	地域医療連携部	日付順
	救急医療の提供の実績	地域医療連携部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療連携部	日付順
	閲覧の実績		
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携部	日付順

※ 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法
及び閲覧の実績

閲覧責任者	氏名		職種		役職等	
			医師		病院長	
閲覧担当者	氏名		職種		役職等	
			医師		地域医療連携部長	
閲覧場所	入退院センター 7 0 7 相談室					
総閲覧件数	医師	歯科医師	地方公共団体	その他	合計	
	3, 0 2 9	0	0	5 1 8	3, 5 4 7	
閲覧手続の概要	診療録は、電子カルテ使用・閲覧許可申請書（教職員以外用）による申請。 病院日誌・各科診療日誌・病院の管理及び運営に関する諸記録は、閲覧希望日を事前に地域医療連携部へ申請。 ID-Linkは藤田医療情報ネットワークID-Link利用者申請書による申請。					

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

医療法施行規則第 9 条の 1 9 第 1 項に規定する委員会の開催の実績

1 委員会の開催回数 4 回

2 委員会における議事の概要

※委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

別紙 7－2 ①、別紙 7－2 ②

別紙 7－2 ③、別紙 7－2 ④

別紙 7－2 ⑤、別紙 7－2 ⑥

別紙 7－2 ⑦ 参考

患者相談の実績				
患者相談を行った場所	看護相談室 面談室（病棟内） 相談室（入退院センター内）			
患 者 相 談 担 当 者	氏	名	職	種 役 職 等
			看護師	看護長
			看護師	看護長
			看護師	看護長
			看護師	看護長
			看護師	副主任
			医療ソーシャルワーカー	
			医療ソーシャルワーカー	
			医療ソーシャルワーカー	
			医療ソーシャルワーカー	
			医療ソーシャルワーカー	
			医療ソーシャルワーカー	
患 者 相 談 件 数	3 5 9 件 (期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日)			
患者相談の概要				
【相談時間】 8：30～17：00				
【相談内容】 看護相談 71件・・・がん相談32件、がん相談以外39件				
福祉相談 288件・・・心理的・社会的問題 0件				
(別紙8－1参照) 在宅ケア 209件				
経済的問題 55件				
家族支援 12件				
社会復帰支援 0件				
その他 12件				
※ 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。				

居宅等における医療の提供の推進に関する支援の状況

居宅等医療提供施設等における連携の緊密化のための支援等の実績

- ・ サービス担当者（退院前カンファレンス）の実施
- ・ 「愛知県退院支援調整看護師学習会」への参加
- ・ 訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所等の連携のための施設訪問や顔合わせ

医療を受ける者又は地域の医療提供施設に対する情報の提供の実績

- ・ 開院当初よりICTを活用した「藤田医療情報ネットワーク（ID-Link）」によりカルテ記事・検査レポート（MRI・CT・内視鏡等）・検査結果・処方内容・基本情報・退院サマリーなどの情報を医療機関へ開示している。診療情報提供書には、MRI・CTなどの画像、心電図や検査データ、処方内容を添付するように努めている。
- ・ 地域連携パスにおいて共通シートを使用し連携している。

その他居宅等における医療の提供の推進に関し必要な支援の実績

- ・ 診療情報提供書をもとに訪問医への依頼を実施し、必要に応じ担当医と直接連携を図る。
- ・ 退院前カンファレンスを開催し、担当医の参加を調整している。

その他地域医療支援病院に求められる取組みの状況

1 連携体制を確保するための専用の室、担当者

専 用 の 室 の 名 称	医療連携室		
担 当 者	氏 名	職 種	役 職 等
		医師	地域医療連携部長

2 病院の機能に関する第三者による評価

評 価 を 行 っ た 機 関 名	公益財団法人 日本医療機能評価機構
評 価 を 受 け た 時 期	2022年6月3日～2027年6月2日

※ 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

3 退院調整部門の取組

退院調整部門の実績

【担当部署】

入退院支援室（看護師11名）、医療福祉相談室（医療ソーシャルワーカー6名）、医療連携室（事務員14名）

【内容】

入退院支援室では看護師が、入院前の患者状態や生活環境の面談を行い、入院後の患者サポートに繋げている。入院後はその情報などを基に退院サポートナースと医療ソーシャルワーカーと協働し退院支援に当たっている。地域医療連携部は、前方連携業務として、他医療機関との紹介・逆紹介に関わる役割も担っている。

【実績】

看護・福祉相談件数 359件

入退院支援加算1算定件数 5,816件

介護支援連携指導料算定件数 171件

（期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日）

4 地域連携を促進するための取組みの実績

策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容

- ・岡崎大腿骨近位部地域連携パス
- ・岡崎脳卒中地域連携パス
- ・岡崎CKD連携パス
- ・岡崎糖尿病地域連携パス
- ・心不全地域連携クリニカルパス

地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み

- ・ 岡崎シームレスケア研究会（SCONEの会）：年3回参加
- ・ 岡崎市医師会と協議して、地域で地域連携クリティカルを運用できるよう努めており、開業医の先生方の意見を取り入れつつ最適な体制構築を目指している。
- ・ 医療機関訪問を積極的に実施することで地域連携クリティカルの意見交換にも努めている。

5 病院が果たしている役割に関する情報発信の実績

情報発信の方法

- ・ 病院ホームページ（随時更新）
- ・ 広報誌News Letter（年4回発行、1回につき800部発行）
- ・ 地域医療連携ガイドブック（年1回発行、1回につき1,100部発行）
- ・ 広報誌ふじたおかざき（年1回発行、1回につき1,000部発行）

内容等の概要

【病院ホームページ】 病院の情報を発信。

【広報誌News Letter】 地域の医療機関向けに当院の取組みや診療科の特色等を発信。

【地域医療連携ガイドブック】 地域の医療機関向けに病院実績や診療科の特色等を発信。

【広報誌ふじたおかざき】 地域の住民向けに当院の取組みや診療科の特色等を発信。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。